

横沢五反田遺跡

市道大胡104号線（窪替戸・前野線）道路改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2007

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

横沢五反田遺跡

市道大胡104号線（淵替戸・前野線）道路改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2007

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

は　じ　め　に

前橋市の北にそびえる赤城山は、住古から人々とかかわりが深く、親しまれ愛される遺産の山であります。とりわけ、赤城山南麓は、その悠久と裾野を広げる台地を中心として、岩宿遺跡に代表されるように遠い旧石器時代から現在まで人々のさまざまな生活が繰り広げられました。

古代において前橋台地の広大に広がる穀倉地帯を背景に、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連続と築かれ、上毛野の国を中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王庵寺、国分寺、国分尼寺、国府など上野國の中核をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、諸代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

近代では、横浜港が開港されると輸出の花形商品である生糸をもって一番乗りしたのが、前橋の糸商人でした。前橋藩は、藩をあげて蚕糸生産に力を注ぎ、我が国初の製糸の機械化に取り組みました。前橋は、生糸によって横浜と結びつき、深い文化交流が始まりました。

今回、報告書を上梓する横沢五反田遺跡は、縄文時代早期の陥し穴や平安時代の製鉄遺構で特徴付けられる赤城山南麓の大胡地区にあります。調査によって、縄文時代前期の土坑を始めとする遺構が検出され、多くの縄文土器が出土しました。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また野外で直接調査に携わってくださった担当者・作業員の皆さんに厚くお礼申し上げます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成 19 年 2 月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長　根　岸　雅

例　　言

1. 本書は、市道大胡 104 号線（溝替戸・前野線）道路改良工事に伴う横沢五反田遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長 根岸 雅）が主体となって実施し、調査業務は委託を受けた桙毛野考古学研究所が行った。調査担当者は、同研究所員の土井道昭・日沖剛史である。
3. 発掘・整理調査は、平成 18 年 11 月 6 日～平成 18 年 3 月 2 日の期間で実施した。
4. 本遺跡は、群馬県前橋市横沢町 533-5 ほかに所在し、遺跡のコード・面積は下記の通りである。

遺跡コード：18 I 3　　面積：250 m²
5. 本書の編集実務は、（桙毛野考古学研究所が行い、同研究所員の土井道昭が担当し、日沖剛史が補助した。
6. 本文の執筆については、I を鈴木雅浩（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）、その他を土井道昭が担当した。
7. 調査に関わる資料は、一括して前橋市教育委員会文化財保護課が保管している。
8. 発掘調査・整理作業に携わった方々は下記の通りである。

[発掘調査]
大野裕子 小野沢絹子 金子孝五郎 関小百里 中島ミホ子 中村勝造 春原正克 深谷道子 松本七郎
[整理調査]
石田満理 磯洋子 大塚規子 大野裕子 武士久美子 半澤利江 深谷道子 山下奈邦子
9. 発掘調査の実施から報告書刊行に至る過程で、下記の機関・諸氏のご指導・ご協力を賜った。記して感謝を申し上げる次第である。（五十音順・敬称略）

カネコハウス有限会社 前橋市東部建設事務所 山下工業株式会社
鈴木徳雄 田中隆明 谷藤博彦 土谷弘 福田貴之 松村和男 水谷貴之 山口逸弘

凡　　例

1. 本書で使用した地形図の発行者・縮尺は各図キャプション脇に示した。
2. 遺構の略称は以下の通りである。

土坑…D　　井戸…I　　溝…M　　ピット…P　　なお、縄文時代の遺構については遺構略称の前に「J」を付してある。
3. 遺構挿図の縮尺は、原則として竪穴状遺構の平面図および土層図・エレベーション図を 1/60、土坑・ピット・井戸・溝を 1/40、微細図を 1/30 として掲載し、各挿図にはスケールを付してある。また、図中の北方位は座標北であり、国家座標（世界測地系に基づく）は遺跡全体図中に示してある。
4. 遺構の規模は基本的に中軸線上で計測し、上端での数値である。長（主）軸方位は座標北を基準とした振れを示す。また、土層図・エレベーション図の基準線数値は標高を示す。
5. 遺物挿図の縮尺は 1 / 1 ~ 1 / 3 の範囲で掲載し、挿図中にスケールを付してある。遺物写真は遺物挿図とほぼ同縮尺である。本文中の数値及び遺物観察表数値で、() 内数値は推定値である。
6. 遺物挿図の石器 No. 12・13・19・41・43 の斜線部分は節理面を表す。
7. 本文中で記載している J D - 1 号土坑の小ピット P₁・P₂・P₃ の深さは、遺構底面からの深さである。

目 次

序			
例言・凡例・目次・挿図目次・表目次・写真図版目次			
I 調査に至る経緯	1	IV 基本層序	3
II 遺跡の位置と環境	2	V 発見された遺構と遺物	5
1. 遺跡の立地	2	1. 壺穴状遺構	5
2. 歴史的環境	2	2. 土坑	5
III 調査の方法と経過	3	3. ピット	7
1. 調査の方法	3	4. 井戸	8
2. 調査の経過	3	5. 溝	8
		6. 遺構外出土遺物	8
		VIまとめ	18

挿図目次

Fig. 1 : 調査区域図	1	Fig. 7 : JD-1号土坑、I-1号井戸	11
Fig. 2 : 周辺の遺跡	2	Fig. 8 : W-1号溝、P-12・14・15・17	12
Fig. 3 : 基本層序	3	Fig. 9 : J-1号壺穴状遺構、JD-1・6号	
Fig. 4 : 遺跡全体図	4	土坑、P-14出土遺物	13
Fig. 5 : J-1号壺穴状遺構、 JD-2・3号土坑	9	Fig. 10 : JD-5・7号土坑、遺構外①	
Fig. 6 : JD-4・5・6・7号土坑	10	出土遺物	14
		Fig. 11 : 遺構外②出土遺物	15

表 目 次

Tab. 1 : ピット一覧表	7	Tab. 5 : JD-5号土坑出土遺物観察表	16
Tab. 2 : J-1号壺穴状遺構 出土遺物観察表	16	Tab. 6 : JD-6号土坑出土遺物観察表	16
Tab. 3 : JD-1号土坑出土遺物観察表	16	Tab. 7 : JD-7号土坑出土遺物観察表	17
Tab. 4 : JD-4号土坑出土遺物観察表	16	Tab. 8 : P-14出土遺物観察表	17
		Tab. 9 : 遺構外出土遺物観察表	17

写真図版目次

P.L. 1 : 遺跡から赤城山を望む		P.L. 3 : JD-4号土坑	
1区・2区全景		JD-5号土坑	
P.L. 2 : 1区調査区全景		JD-5号土坑遺物出土状況	
2区調査区全景		JD-6号土坑	
J-1号壺穴状遺構		JD-7号土坑	
J-1号壺穴状遺構縹出土状況		I-1号井戸	
JD-1号土坑		W-1号溝	
JD-1号土坑セクション		基本層序B	
JD-1号土坑小ピット断ち割り		P.L. 4 : 出土遺物①	
JD-2号土坑		P.L. 5 : 出土遺物②	

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、市道大胡 104 号線（座替戸・前野線）道路改良工事に伴い、事前に実施した試掘調査結果を踏まえ平成 18 年 8 月 18 日、前橋市長 高木政夫より、埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 根岸雅（以下「調査団」という。）に対し発掘調査実施について依頼した。しかし、既に市内数カ所において調査団直営による発掘及び整理調査が実施されており、調査団直営で実施することは困難と判断した。よって、民間調査会社による整理調査を進める方針を決め、前橋市と調査団の間で平成 18 年 9 月 15 日付けで埋蔵文化財発掘調査に関する協定書を締結した。これに基づき、平成 18 年 10 月 19 日付けで、依頼者である前橋市と調査団との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、同年 10 月 24 日付けで民間調査会社である有限会社 毛野考古学研究所取締役 長井正欣との間で委託契約を締結し、発掘調査開始に至る。

なお、遺跡名称「横沢五反田」（市遺跡コード：1813）の「五反田」は旧地籍の小字名を採用したものである。

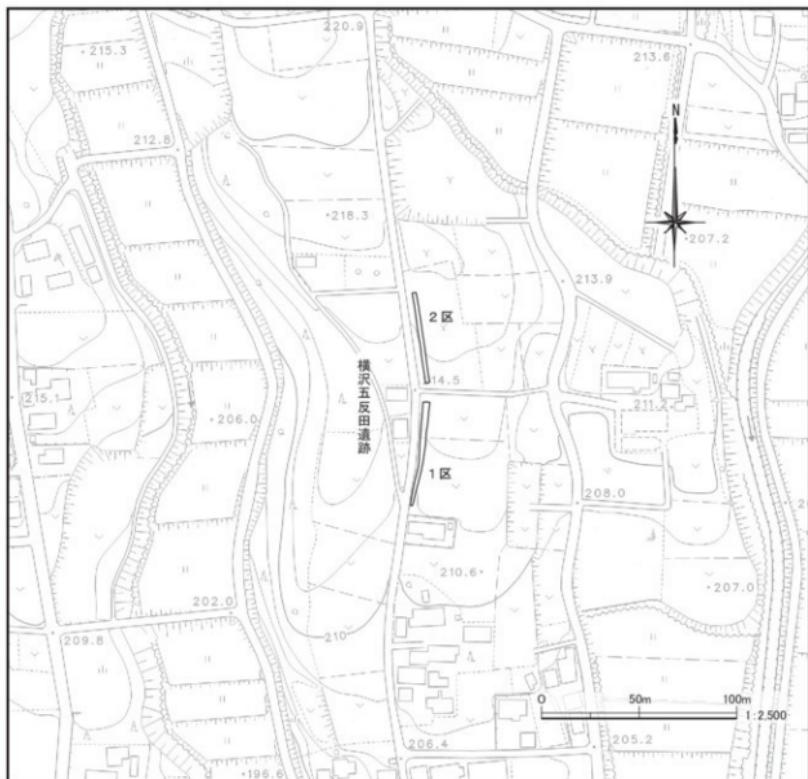


Fig. 1 調査区域図（前橋市役所作成『前橋市現形図 44-1』1/2,500）

II 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の立地

横沢五反田遺跡は前橋市の北東、旧大胡町に位置し、上信電鉄江木駅からほぼ北へ2.4kmの地点にあたる。遺跡からは北に赤城山・西に榛名山さらには浅間山・南に関東平野を望むことができる。

本遺跡は赤城山南麓の緩斜面に立地し、周囲には遺跡の東側を流れる寺沢川など、赤城山麓を水源とする小河川が幾重にも南流する。このような小河川は長い年月をかけて地形を削り、舌状の台地を造り出すに至っている。遺跡は、舌状台地の突端に立地し標高は約212m～217mを測り、南に向かって緩やかに傾斜している。

2. 歴史的環境

赤城山南麓では横沢五反田遺跡（1）を始め、近年数多くの遺跡が調査・報告されており、本遺跡の中心時期である縄文時代を概観するだけでも、多数検出されている。周辺における縄文時代の遺跡は、草創期～後期に至るまで確認されているが、なかでも花積下層式と開山式の中間形式である二ツ木式土器が出土している横沢新屋敷遺跡（3）・堀越丁二本松B地点遺跡（13）・堀越丙二本松遺跡（14）・堀越芝山遺跡（15）・堀越中道遺跡（16）の存在が際立っている。また、本遺跡で確認されている縄文時代早期～前期に相当する陥し穴が数多く調査されている地域でもあり、横沢大塚遺跡（2）・横沢新屋敷遺跡（3）・小坂子油田I・II遺跡を挙げることができる。

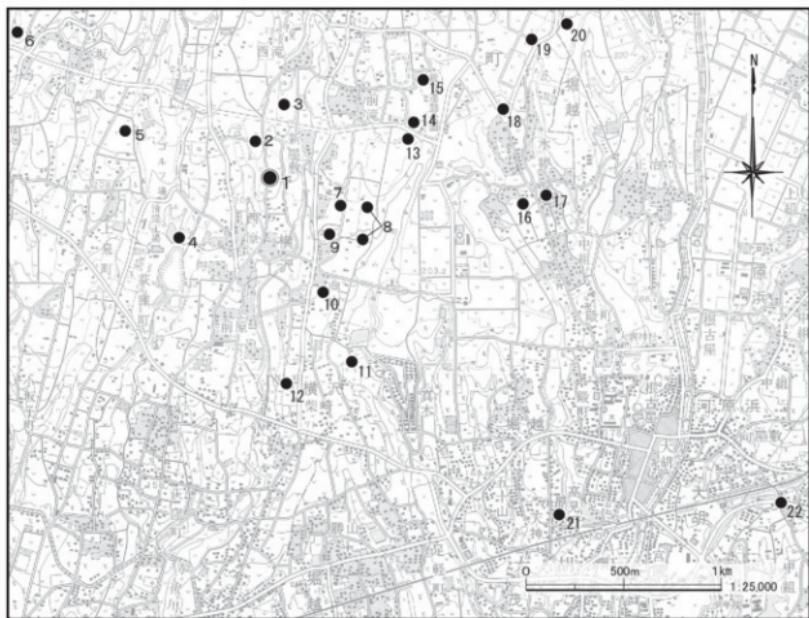


Fig. 2 周辺の遺跡 (国土地理院作成『大胡』・『鼻毛石』1/25,000)

III 調査の方法と経過

1. 調査の方法

前橋市教育委員会による試掘調査の結果、縄文時代前期の遺構が確認及び検出されることが予想されたため、重機による表土除去はローム漸移層面を目安として掘り下げることとした。遺構の確認・検出は人力で行い、埋没状態・遺物出土状態等を写真及び平面・断面図により随時記録しながら掘り下げていった。なお、遺構の検出は壁面・底面等を壊さないことを原則として行っていたが、構築方法等を明確に捉えるため部分的に断ち割り調査も行っている。実測図は、平面・断面図とともに1/20縮尺を基本とし、状況に応じて1/10縮尺の図面も作成した。最終的な完掘状況を示す全体図は1/100縮尺とした。写真撮影は35mm黑白・カラーリバーサル・カラーネガフィルムに加え、これらの補助としてデジタルカメラを使用した。なお、遺跡全体の撮影はバルーン撮影で対応している。調査終了後は重機により埋め戻しを行い、調査前の状態と同様にした。

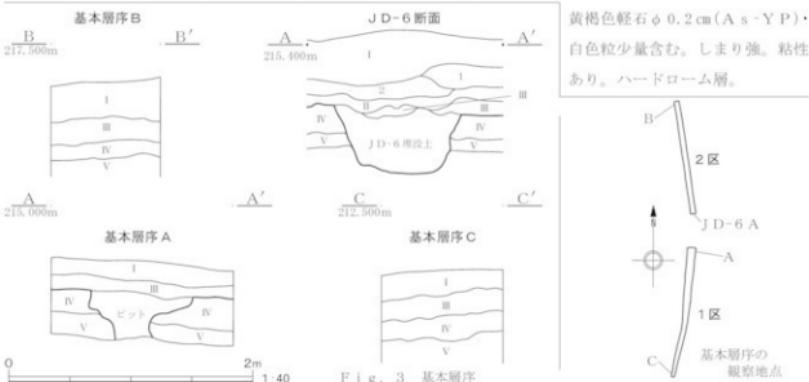
2. 調査の経過

現地での発掘調査は平成18年11月6日～平成18年11月20日の期間で実施している。

6日：調査開始。重機による表土除去を行う。7日：重機による表土除去と併行して、1区より遺構確認作業に着手する。8日：重機による表土除去及び遺構確認作業を終える。調査の主体を検出作業に移す。13日：JD-1号土坑で小ピット3基を確認し、同遺構が陥り穴であることが判明した。14日：確認された遺構を全て掘り終える。15日：バルーンによる全体撮影を行う。JD-1号土坑小ピットの断ち割り調査を行なった結果、杭が直接打ち込まれている痕跡を確認する。16日：遺跡全体測量を終える。17日：前橋市教育委員会による終了確認を行う。18日：調査区の埋め戻しを行う。20日：発掘器材等の撤収を行い、現地での調査を終了する。

IV 基本層序

本遺跡における基本層序は以下の通りである。I. 黒褐色土：Hr-FP ϕ 0.2～0.5cm・黄褐色軽石 ϕ 0.2cm中量、炭化粒微量含む。しまりややあり。粘性あり。現耕作土。II. 黒褐色土：ローム粒中量含む。しまりややあり。粘性弱。黒ボク土。III. にぶい黄褐色土：やや砂質。黄褐色軽石 ϕ 0.2cm・褐色粒微量含む。しまりややあり。粘性弱。淡色黒ボク土。IV. にぶい黄褐色土：黄褐色軽石 ϕ 0.2cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。ローム漸移層とソフトローム層に分層されるものと考えられるが明確に分層できないため1層とした。V. 黄褐色土：



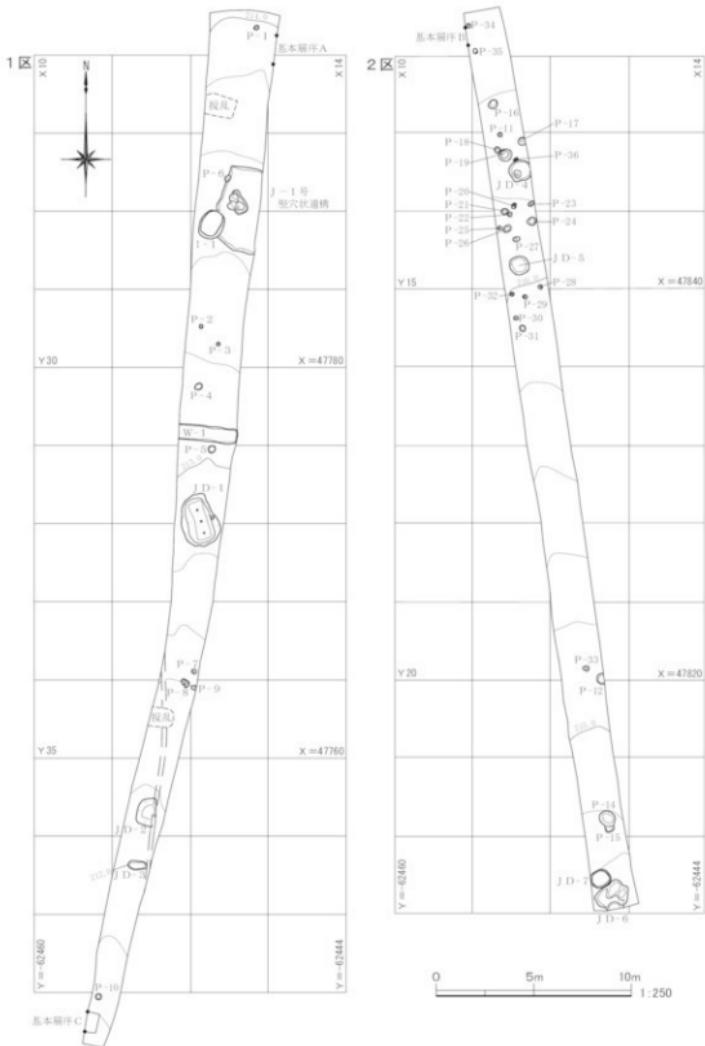


Fig. 4 遺跡全体図

V 発見された遺構と遺物

本遺跡の調査では、堅穴状遺構 1 基・土坑 7 基（うち、陥穴 1 基）・ピット 35 基・井戸 1 基・溝 1 条が確認されている。これらの遺構は、縄文時代前期の花積下層式期と 6 世紀中頃以降（H r - F P : 棲名山二ヶ岳伊香保テフラ降下以降）に大別される。縄文時代前期の遺構は、J - 1 号堅穴状遺構・JD - 4 ~ 7 号土坑・P - 14 である。このほか、JD - 1（陥穴）・2 号土坑や P - 1・4・6 ~ 8・11・12・15 ~ 22・24・27 ~ 29・31・34 ~ 36 が埋没土の状態等から縄文時代の遺構と想定できるものの、詳細な時期まで捉えるに至っていない。6 世紀中頃以降の遺構は I - 1 号井戸・W - 1 号溝である。これらの遺構からは出土遺物は見られず、時期を決定付ける手がかりは埋没土中に紛れる H r - F P のみであることから、6 世紀中頃以降と判断することとした。

1. 堅穴状遺構

- J - 1 号堅穴状遺構（遺構：Fig. 5、PL. 2 / 遺物：Fig. 9、PL. 4）

位置：X 12 Y 27・X 12 Y 28 グリッド 検出状態：検出された遺構は一部で、残りは調査区外へと延びる。西壁で P - 6・I - 1 号井戸と重複するが、埋没土層の観察から、本遺構のほうが古いと判断される。平面形態：不整方形状ないし不整長方形状を呈するものと想定される。規模：4.3 m × (2.16 m) 主軸方位：N - 15° - E 残存深度：0.57 m 床面の状態：多少の起伏は見られるものの、ほぼ平坦である。検出部分の中央には 1.24 m × 0.89 m、深さ 0.26 m の不整形なピットが確認されている。同ピットは本遺構に伴うものと判断され、ローム粒・φ 0.2 ~ 0.5 cm のロームブロック・白色粒を含む黒褐色土により埋没する状態にある。貼床の痕跡は確認されていない。壁周溝：確認されていない。柱穴：確認されていない。炉：確認されていない。

遺構埋没状態：黒褐色土を主体とした自然埋没と想定される。遺物出土状態：遺物の出土は南側に偏る傾向にある。床面直上からは石器類のほか、少量の炭化材が 3 ヶ所で確認されている。また、床面より 0.10 m 程高い位置で土器片が出土している。遺物：花積下層式深鉢片 2 点・石器 1 点・スクレイバー 1 点・リタッヂドフレイク 2 点・剥片 1 点が出土している。時期：縄文時代前期初頭花積下層式期に帰属するものと想定される。

備考：床面から 0.10 m ~ 0.23 m の高さで φ 10 cm 弱の礫がまとまって出土しているが、埋没土の観察では掘り込み等は確認されていない。礫は安山岩のみで被熱等の痕跡は確認されていない。

2. 土坑

- JD - 1 号土坑（遺構：Fig. 7、PL. 2 / 遺物：Fig. 9、PL. 4）

位置：X 11 Y 31・X 12 Y 31・X 11 Y 32・X 12 Y 32 グリッド 形態：平面形態から陥穴と判断される。遺構確認面〈上場〉では不整円形状、遺構中位～下位〈中～下場〉にかけては長方形状を呈する。断面形状は箱状を呈する。底面には直径 10 cm 程の小ピット 3 基〔P₁・P₂・P₃〕が長軸方向に直線的に並び、なおかつ等間隔に確認されており、杭の打ち込み痕と判断される。規模：〈上場〉2.68 m × 1.82 m・〈下場〉1.96 m × 0.64 m・〈P₁〉0.10 m × 0.10 m × 深さ 0.29 m・〈P₂〉0.12 m × 0.10 m × 深さ 0.42 m・〈P₃〉0.10 m × 0.08 m × 深さ 0.41 m 残存深度：1.03 m 主軸方位：N - 16° - W 遺構埋没状態：黒褐色土を主体とした自然埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土の上位～中位より花積下層式・闇山式・諸磯 c 式・縄文時代中期の土器片、石器類（スクレイバー）が出土している。遺物：花積下層式深鉢片 25 点・闇山式深鉢片 1 点・諸磯 c 式深鉢片 19 点・縄文前期深鉢片 4 点・縄文中期深鉢片 2 点・スクレイバー 6 点・リタッヂドフレイク 6 点・剥片 14 点が出土している。時期：縄文時代前期以前に帰属するものと想定される。底面からの遺物出土が乏しいことから、詳細な時期は不明である。

・ JD-2号土坑（遺構：Fig. 5、PL. 2）

位置：X 11 Y 35 グリッド 形態：現代の用水路と重複する部分は調査を行っていない。遺構確認の状態から平面不整梢円形状・断面逆台形状を呈するものと想定される。 規模：1.40 m × (0.94 m) 残存深度：0.54 m
主軸方位：N - 9° - E 遺構埋没状態：黒褐色土を主体とした自然埋没と想定される。 遺物出土状態：遺物の出土は見られなかった。 時期：埋没土の状態から縄文時代に帰属するものと想定される。

・ JD-3号土坑（遺構：Fig. 5）

位置：X 11 Y 36 グリッド 形態：平面梢円形状・断面皿状を呈する。 規模：0.96 m × 0.46 m 残存深度：0.06 m 主軸方位：N - 85° - W 遺構埋没状態：暗褐色土を主体とした自然埋没と想定される。 遺物出土状態：遺物の出土は見られなかった。 時期：不明。

・ JD-4号土坑（遺構：Fig. 6、PL. 3／遺物：Fig. 9、PL. 4）

位置：X 11 Y 13 グリッド 形態：平面円形状・断面不整形状を呈する。遺構の一部は調査区外へと延びる。 規模：1.16 m × 1.14 m 残存深度：0.54 m 主軸方位：N - 56° - E 遺構埋没状態：黒褐色土を主体とした人為的埋没と判断される。 遺物出土状態：埋没土上位～中位からの遺物出土が目立つ。 遺物：花積下層式深鉢片6点・リタッヂフレイク4点・剥片1点が出土している。 時期：縄文時代前期初頭花積下層式期に帰属するものと想定される。

・ JD-5号土坑（遺構：Fig. 6、PL. 3／遺物：Fig. 10、PL. 4・5）

位置：X 11 Y 14 グリッド 形態：平面円形状・断面逆台形状を呈する。 規模：0.98 m × 0.94 m 残存深度：0.31 m 主軸方位：N - 74° - E 遺構埋没状態：黒褐色土を主体とした人為的埋没と判断される。 遺物出土状態：埋没土上位～下位より出土している。 遺物：花積下層式深鉢片30点・石鏃1点・石椎1点・スクレイバー3点・リタッヂフレイク5点・剥片4点・敲石1点が出土している。 時期：縄文時代前期初頭花積下層式期に帰属するものと想定される。

・ JD-6号土坑（遺構：Fig. 6、PL. 3／遺物：Fig. 9、PL. 4）

位置：X 12 Y 22 グリッド 形態：平面不整形状・断面逆台形状を呈する。遺構の一部は調査区外へと延びる。 規模：1.74 m × (1.29 m) 残存深度：0.57 m 主軸方位：不明。 遺構埋没状態：黒褐色土を主体とした自然埋没と想定される。 遺物出土状態：埋没土中より土器の小片が出土している。 遺物：花積下層式深鉢小片2点・縄文前期深鉢片1点が出土している。 時期：埋没土の状態から縄文時代に帰属するものと想定される。

備考：遺構の形状等から縄文時代の木根痕とも考えられる。

・ JD-7号土坑（遺構：Fig. 6、PL. 3／遺物：Fig. 10、PL. 4）

位置：X 12 Y 22 グリッド 形態：平面円形状・断面袋状を呈する。 規模：1.02 m × 0.88 m 残存深度：1.05 m 主軸方位：N - 34° - W 遺構埋没状態：黒褐色土を主体とした人為的埋没と判断される。 遺物出土状態：埋没土上位にφ 10 cm程の礎（安山岩）が集中する傾向にあり、礎集中部直下からの遺物出土が目立つ。 遺物：花積下層式深鉢片8点・スクレイバー2点・リタッヂフレイク1点・剥片3点が出土している。 時期：縄文時代前期初頭花積下層式期に帰属するものと想定される。

3. ピット（遺構：Fig. 8／遺物：Fig. 9、PL. 4）

ピットは総計 36 基調査しているが、P-13 は欠番とした。分布状況は 21 基が 2 区北側に集中する傾向がみられ、その他は散在する状況にある。各ピットの時期は、縄文時代前期に帰属すると想定されるものは 24 基を数え、そのほかは縄文時代以降に帰属する P-5 を除き木根の腐食痕と判断される。

Tab. 1 ピット一覧表

ピット番号	グリッド	規模 (cm)	深さ (cm)	埋没土	備考
P-1	X 12 Y 25	28 × 22	10	A	縄文時代前期のピットと想定される。単層。
P-2	X 12 Y 29	22 × 20	10	H	木根の腐食痕と判断される。単層。縄文時代前期土器片 1 点。
P-3	X 12 Y 29	20 × 20	8	I	木根の腐食痕と判断される。単層。
P-4	X 12 Y 30	42 × 34	12	B	縄文時代前期のピットと想定される。単層。
P-5	X 12 Y 31	38 × 36	10	G	縄文時代以降に帰属。単層。
P-6	X 12 Y 27	38 × 28	14	B	縄文時代前期のピットと想定される。木根の侵食を受ける。J-1 号堅穴状遺構と重複関係にあり、本遺構が新しい。単層。
P-7	X 12 Y 33	26 × 24	58	B	縄文時代前期のピットと想定される。単層。
P-8	X 11Y 34	46 × 30	13	B	縄文時代前期のピットと想定される。単層。
P-9	X 12 Y 34	28 × 24	11	I	木根の腐食痕と判断される。単層。
P-10	X 10 Y 33	32 × 32	18	H	木根の腐食痕と判断される。単層。
P-11	X 11Y 13	24 × 22	15	C	縄文時代前期のピットと想定される。単層。
P-12	X 12 Y 14	56 × 36	12	図あり	縄文時代前期のピットと想定される。Fig. 8 参照。
P-13					欠番
P-14	X 12 Y 21	85 × 78	28	図あり	縄文時代前期のピットと想定される。P-15 と重複関係にあり、本遺構が新しい。花積下層式土器片 3、縄文時代剥片 1。Fig. 8 参照。
P-15	X 12 Y 21	48 × -	14	図あり	縄文時代前期のピットと想定される。P-14 と重複関係にあり、本遺構が古い。Fig. 8 参照。
P-16	X 11Y 12	48 × 42	20	D	縄文時代前期のピットと想定される。単層。
P-17	X 11Y 13	40 × 34	34	図あり	縄文時代前期のピットと想定される。Fig. 8 参照。
P-18	X 11Y 13	32 × 32	24	C	縄文時代前期のピットと想定される。単層。
P-19	X 11Y 13	66 × 64	75	D	縄文時代前期のピットと想定される。単層。
P-20	X 11Y 13	30 × 24	41	E	縄文時代前期のピットと想定される。単層。
P-21	X 11Y 13	40 × 32	10	E	縄文時代前期のピットと想定される。単層。
P-22	X 11Y 14	24 × 24	31	E	縄文時代前期のピットと想定される。単層。
P-23	X 11Y 13	34 × 22	13	H	木根の腐食痕と判断される。単層。
P-24	X 11Y 14	48 × 42	28	E	縄文時代前期のピットと想定される。単層。
P-25	X 11Y 14	22 × 20	33	I	木根の腐食痕と判断される。単層。
P-26	X 11Y 14	44 × 32	56	H	木根の腐食痕と判断される。単層。
P-27	X 11Y 14	36 × 26	29	F	縄文時代前期のピットと想定される。単層。
P-28	X 11Y 14	24 × 22	26	F	縄文時代前期のピットと想定される。単層。
P-29	X 11Y 15	26 × 10	44	F	縄文時代前期のピットと想定される。単層。
P-30	X 11Y 15	24 × 10	35	I	木根の腐食痕と判断される。単層。
P-31	X 11Y 15	32 × 30	11	F	縄文時代前期のピットと想定される。単層。
P-32	X 11Y 15	12 × 10	21	I	木根の腐食痕と判断される。単層。
P-33	X 12 Y 14	32 × 26	13	I	木根の腐食痕と判断される。単層。
P-34	X 10 Y 11	24 × 20	26	F	縄文時代前期のピットと想定される。単層。
P-35	X 11Y 11	26 × 24	26	F	縄文時代前期のピットと想定される。単層。
P-36	X 11Y 13	26 × 16	22	F	縄文時代前期のピットと想定される。単層。

※表中の「埋没土」欄に記される「A～I」は下記の埋没土を示す。グレートーンは縄文時代前期と想定されるピットを示す。
A : 暗褐色土 ロームブロック ϕ 1.0 cm・褐色粒・炭化粒微量含む。しまりあり。粘性あり。 **B : 暗褐色土** ロームブロック ϕ 0.2 cm・白色粒少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
C : 黒褐色土 ロームブロック ϕ 0.2 ~ 0.5 cm・白色粒・炭化粒微量含む。しまり強。粘性あり。
E : 黑褐色土 ロームブロック ϕ 0.2 ~ 0.5 cm中量、白色粒・炭化粒微量含む。しまりあり。粘性あり。
F : 黑褐色土 ロームブロック ϕ 0.2 ~ 0.5 cm中量、白色粒少量、炭化粒微量含む。しまり強。粘性あり。
G : 暗褐色土 ロームブロック ϕ 0.5 ~ 1.0 cm中量、白色粒少量含む。しまり弱。粘性弱。
H : 暗褐色土 ロームブロック ϕ 0.5 ~ 1.0 cm少量含む。しまり弱。粘性弱。
I : 黑褐色土 ロームブロック ϕ 0.5 ~ 1.0 cm少量含む。しまり弱。粘性弱。

4. 井戸

・ I-1 号井戸（遺構：Fig. 7、P.L. 3）

位置：X 12 Y 28 グリッド 形態：平面梢円形状を呈する。断面形状は帶水により、遺構下位の壁面が崩落したため袋状となったものと想定される。重複：J-1号堅穴状遺構と重複するが、埋没土層の観察から本遺構のほうが新しいと判断される。規模：〈上場〉 $1.50\text{ m} \times 1.24\text{ m}$ ・〈下場〉 $1.42\text{ m} \times 0.92\text{ m}$ 残存深度：1.56 m 主軸方位：N-30°-E 遺構埋没状態：Hr-FPを含む黒色及び黒褐色を主体とした非常に軟らかい土を人為的に埋めているものと判断される。「息抜き」の痕跡・鉄分の沈着等は確認されていない。また、礫の出土も認められないことから素掘りの井戸と判断される。遺物出土状態：埋没土中より縄文時代の打製石斧が出土しているが、埋没時に紛れ込んだものと判断される。遺物：打製石斧1点が出土している（遺構外出土遺物42で掲載）。時期：埋没土にHr-FPが混入することから6世紀中頃以降に帰属するものと判断される。

5. 溝

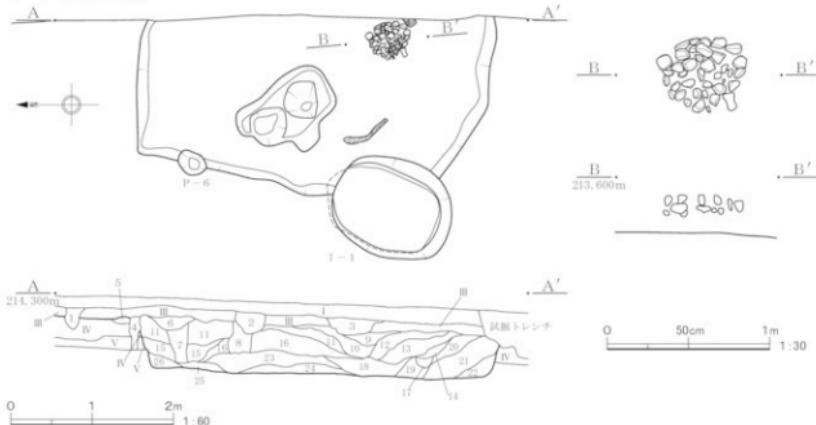
・ W-1 号溝（遺構：Fig. 8、P.L. 3）

位置：X 11 Y 30・X 12 Y 30 グリッド 形態：東西方向に走行し、調査区東壁直前で立ち上がる。断面形状は箱状を呈する。規模：〈上端幅〉 0.80 m ・〈下端幅〉 0.72 m 残存深度：0.52 m 主軸方位：N-83°-W 遺構埋没状態：Hr-FP・ $\phi 0.2\text{ cm} \sim 0.5\text{ cm}$ のロームブロックを含む黒褐色土を主体とした人為的埋没と判断される。遺物出土状態：遺物の出土は見られなかった。時期：埋没土にHr-FPが混入することから6世紀中頃以降に帰属するものと判断される。埋没土と地山の境が明瞭であることや溝の走行が現在の畠地割りと一致することから、近・現代に帰属する可能性が高いものと推測される。

6. 遺構外出土遺物（遺物：Fig. 10・11、P.L. 5）

遺構外遺物のほとんどはIV層（ローム漸移層・ソフトローム層）からの出土で、花積下層式30点・関山式6点・黒浜式3点・縄文前期織維系土器16点・諸磧b式2点・諸磧c式8点・縄文中期2点・縄文時代時期不明遺物1点・縄文時代のスクレイバー4点・打製石斧2点・リタッチドフレイク2点・剥片5点・圓石1点・近世以降の軟質陶器鍋及び瀬戸美濃焼各1点を数え、遺構と同様に花積下層式期に帰属するものが突出する傾向にある。これらの遺物は遺構が集中する2区北側とは異なり、1区北側・2区南側に偏在する状態にある。

J-1号竖穴状遗構



1. 鹿児島色 : ローム少量。Hr. FP プラス ϕ 0.2cm 番含む。しまりあり。粘性やあります。

2. 鹿児島色 : ローム少量。Hr. FP プラス ϕ 0.2~0.5cm。FP プラス ϕ 0.2~0.5cm 番含む。しまりあり。粘性やあります。

3. 鹿児島色 : ローム少量。黄褐色 ϕ 0.2~0.3cm 少量含む。しまりあり。粘性やあります。

4. 鹿児島色 : ローム少量。白色細少量含む。しまり無し。粘性。

5. 鹿児島色 : ローム少量。白色細少量含む。しまりあり。粘性やあります。

6. 鹿児島色 : ローム少量。黃褐色 ϕ 0.2~0.3cm 少量。黒化液微量含む。しまりあり。粘性やあります。

7. 鹿児島色 : ローム多量。白色細 ϕ 0.2~0.5cm 少量含む。しまりあり。粘性弱。木根痕。

8. 鹿児島色 : 白色細 ϕ 0.2~0.3cm 少量。ロームブック ϕ 0.2~0.3cm 少量含む。しまり弱。點状あります。

9. 鹿児島色 : 白色細 ϕ 0.2~0.3cm 少量。ロームブック ϕ 0.2~0.3cm 少量含む。しまりあり。粘性あります。

10. 鹿児島色 : ローム少量。白色細 ϕ 0.2~0.3cm 少量。白色細 ϕ 0.2~0.3cm 番含む。しまりあり。粘性あります。

11. 鹿児島色 : ローム中量。白色細 ϕ 0.2~0.3cm 少量。白色細 ϕ 0.2~0.3cm 番含む。しまりあり。粘性あります。

12. 鹿児島色 : ローム中量。白色細 ϕ 0.2~0.3cm 少量含む。しまりあり。粘性あります。

13. 鹿児島色 : ローム多量。白色細 ϕ 0.2~0.3cm 少量。白色細 ϕ 0.2~0.3cm 番含む。しまり強。粘性あります。

14. 鹿児島色 : ロームブック ϕ 0.2~1.0cm 中量。ローム少。白色細少量含む。しまりより。粘性あります。

15. 鹿児島色 : ローム多量。黃褐色 ϕ 0.2~0.3cm。白色細 ϕ 0.2~0.5cm 少量含む。しまりあり。粘性あります。

16. 鹿児島色 : ローム中量。ロームブック ϕ 0.2~0.3cm 少量。黃褐色 ϕ 0.2~0.3cm。白色細少量含む。しまり強。粘性あります。

17. 鹿児島色 : ローム多量。白色細 ϕ 0.2~0.3cm 少量含む。しまり強。粘性やあります。

18. 鹿児島色 : ローム中量。白色細 ϕ 0.2~0.3cm 少量。白色細 ϕ 0.2~0.3cm 番含む。しまりあり。粘性あります。

19. 鹿児島色 : ローム多量。黃褐色 ϕ 0.2~0.3cm。白色細 ϕ 0.2~0.3cm 番含む。しまり強。粘性あります。

20. 鹿児島色 : ローム少量。白色細少量。黃褐色 ϕ 0.2~0.3cm 番含む。しまりあり。粘性やあります。

21. 鹿児島色 : ローム少量。白色細少量。黃褐色 ϕ 0.2~0.3cm 番含む。しまり強。粘性あります。

22. 鹿児島色 : ローム少量。ロームブック ϕ 0.2~0.3cm 中量。白色細 ϕ 0.2~0.3cm 少量含む。しまり強。粘性あります。

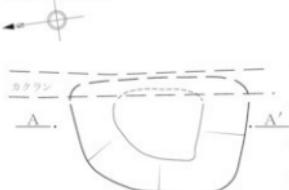
23. 鹿児島色 : ローム少量。ロームブック ϕ 0.2~0.3cm 中量。白色細 ϕ 0.2~0.3cm 少量含む。しまり強。粘性あります。

24. 鹿児島色 : ローム少量。ロームブック ϕ 0.2~0.3cm 中量。白色細 ϕ 0.2~0.3cm 少量含む。しまり強。粘性あります。

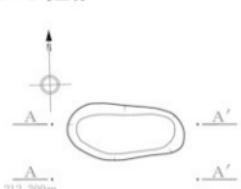
25. 鹿児島色 : ローム多量。ロームブック ϕ 0.2~0.3cm 中量。白色細 ϕ 0.2~0.3cm 少量含む。しまり強。粘性あります。

26. 鹿児島色 : ローム少量。ロームブック ϕ 0.2~0.3cm 中量。白色細 ϕ 0.2~0.3cm 少量含む。しまり強。粘性あります。

JD-2号土坑



-1 D=3号+抗



A geological cross-section diagram labeled A-A'. The section shows several rock units, each labeled with a number: 2, 1, 2, 4, 3, 3, 5, 6, 7, and 8. Unit 2 is at the top, followed by unit 1, then unit 2 again. Below these are units 4 and 3, which are further subdivided into 3 and 4. At the bottom are units 5, 6, 7, and 8. To the left of the section, the elevation '212,300m' is indicated above the base of the section. To the right, a scale bar shows distances of 2m and 1.40m.

Fig. 5. $L=1$ 景點穴狀遺構。LD=2:3 景土埴。

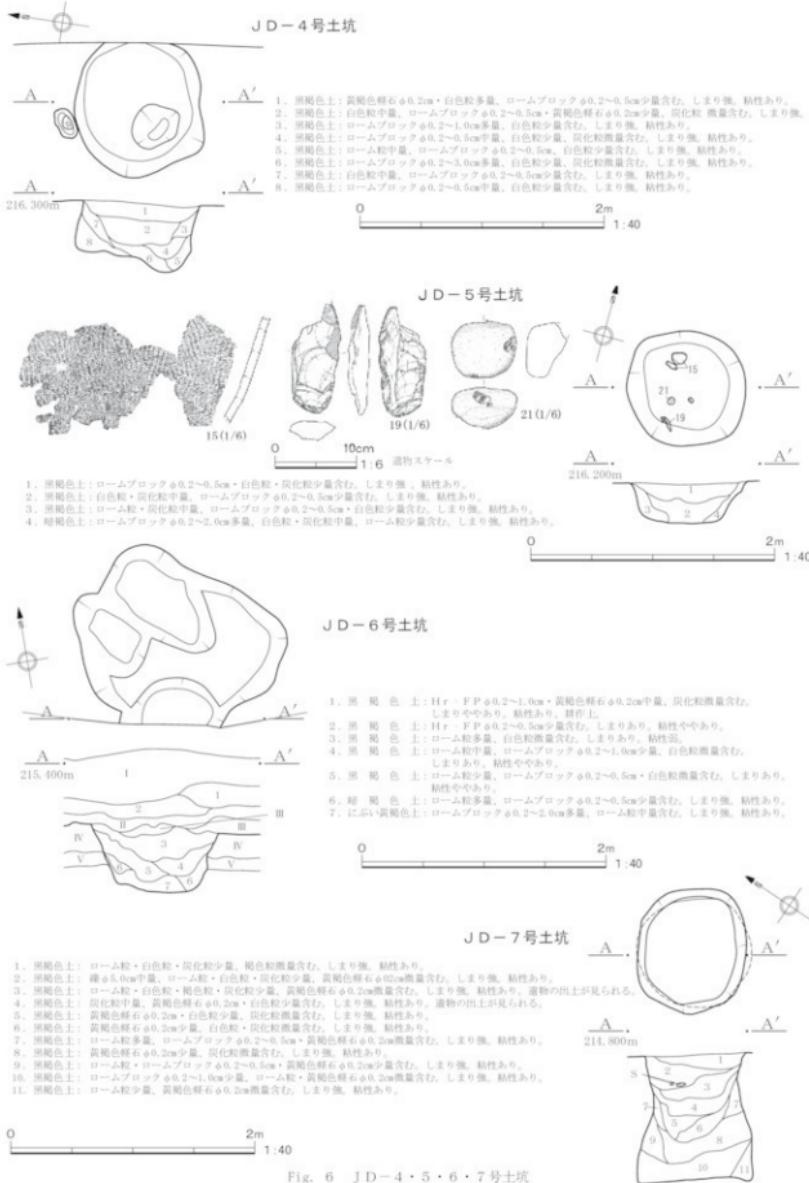
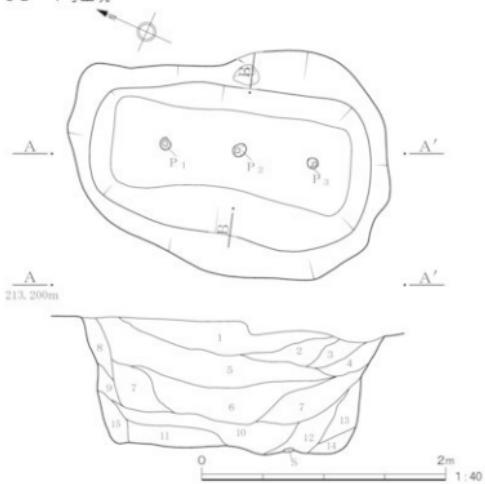


Fig. 6 JD - 4 · 5 · 6 · 7 号土坑

JD-1号土坑



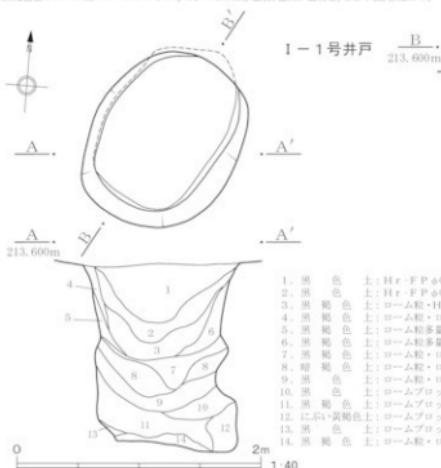
1. 黄褐色土；ローム粘，白色粘中量，褐色少量含む。しまり強，粘性あり。
2. 黄褐色土；ローム粘，白色粘，褐色少量含む。しまり強，粘性あり。
3. 黑褐色土；ローム粘，白色粘，褐色少量含む。しまり強，粘性あり。
4. 黑褐色土；ローム粘，ロームブロックφ0.6～0.8cm。白色粘，褐色少量含む。しまり強，粘性あり。
5. 黑褐色土；ローム粘，白色粘，褐色少量含む。しまり強，粘性あり。
6. 黑褐色土；ローム粘，ローム粘，褐色少量含む。しまり強，粘性あり。
7. 黑褐色土；ローム粘，白色粘中量，ロームブロックφ0.2～0.5cm。褐色少量含む。しまり強，粘性あり。
8. 黑褐色土；ローム粘，白色粘，褐色少量含む。しまり強，粘性あり。
9. 黑褐色土；ローム粘，白色粘，褐色少量含む。しまり強，粘性あり。
10. 黑褐色土；ロームブロックφ0.2～0.5cm。ローム粘，白色粘少量含む。しまり強，粘性あり。
11. 黑褐色土；ロームブロックφ0.2～0.5cm。白色粘少量含む。しまり強，粘性あり。
12. 黑褐色土；ロームブロックφ0.2～0.5cm。白色粘少量含む。しまり強，粘性あり。
13. 黑褐色土；ローム粘中量，ロームブロックφ0.2～0.5cm。白色粘少量含む。しまり強，粘性あり。
14. 黑褐色土；ローム粘×ロームブロックφ0.2～1.0cm中量。白色粘少量含む。しまり強，粘性あり。
15. 黑褐色土；ローム粘×ロームブロックφ0.2～3.0cm多量。白色粘少量含む。しまり強，粘性あり。

JD-1号土坑P2補足図



1. 墓褐色土；VII層が植物の根食により暗褐色に変色。しまり弱，粘性あり，柱の打ち込み板。
 2. 黄褐色土；鐵屑が植物の根食を受けた縫隙。しまり弱，粘性あり，柱の打ち込み板。
- ※2層直下の標準堆積土は柱の打ち込みにより破くする状態にある。
- VI. 黄褐色土；黄褐色砂岩φ0.1cm。白色粘少量含む。しまり強，粘性あり。
 - V. 黄褐色土；白色粘砂岩φ0.2～0.5cm少量含む。しまり弱，粘性あり。
 - IV. 黄褐色土；白色粘砂岩φ0.2～0.5cm少量含む。しまり強，粘性あり。
 - III. 黄褐色土；白色粘砂岩φ0.2～0.5cm少量含む。しまり強，粘性あり。
 - II. 黄褐色土；白色粘砂岩φ0.2～0.5cm少量含む。しまり強，粘性あり。
 - I. 黄褐色土；白色粘砂岩φ0.2～0.5cm少量含む。しまり強，粘性あり。

0 50cm 1m 1:30



F i g . 7 JD-1号土坑、J-1号井戸

W-1号溝

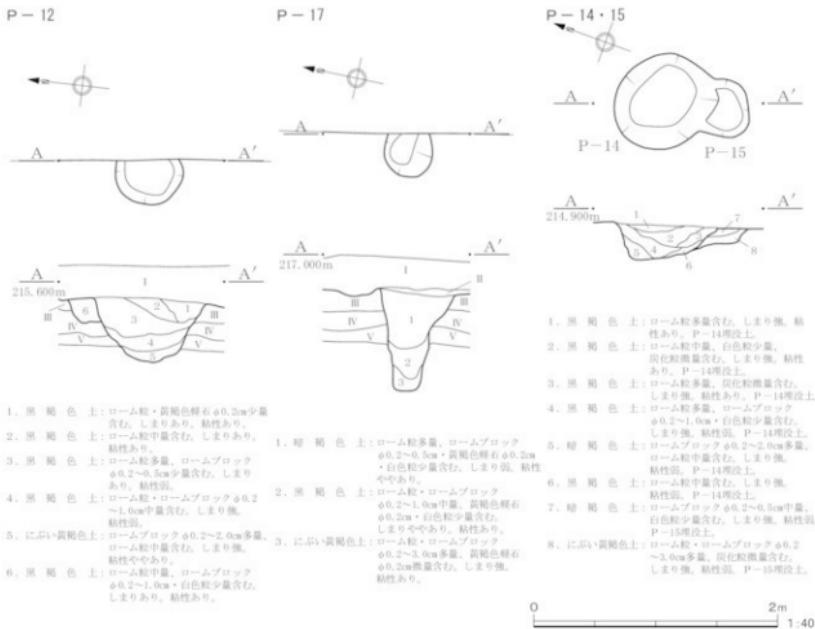
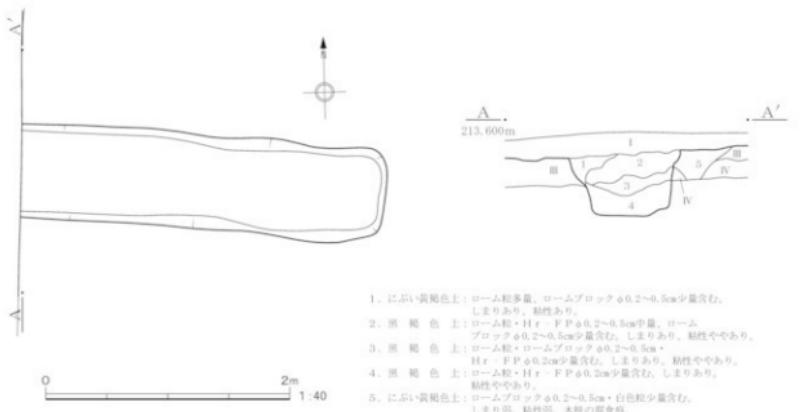
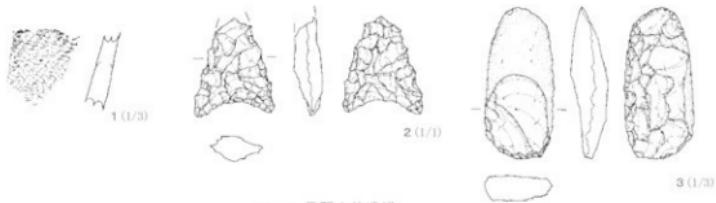
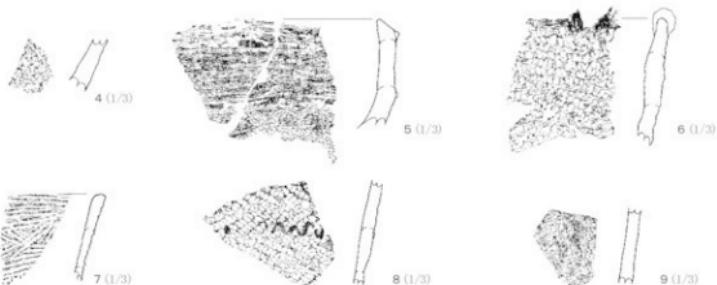


Fig. 8 W-1号溝、P-12・14・15・17



J-1号竖穴状遗構



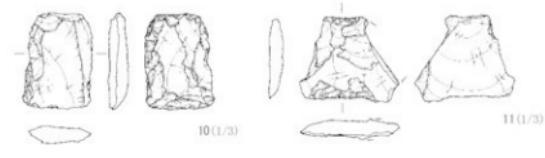
J D-4号土坑



J D-6号土坑



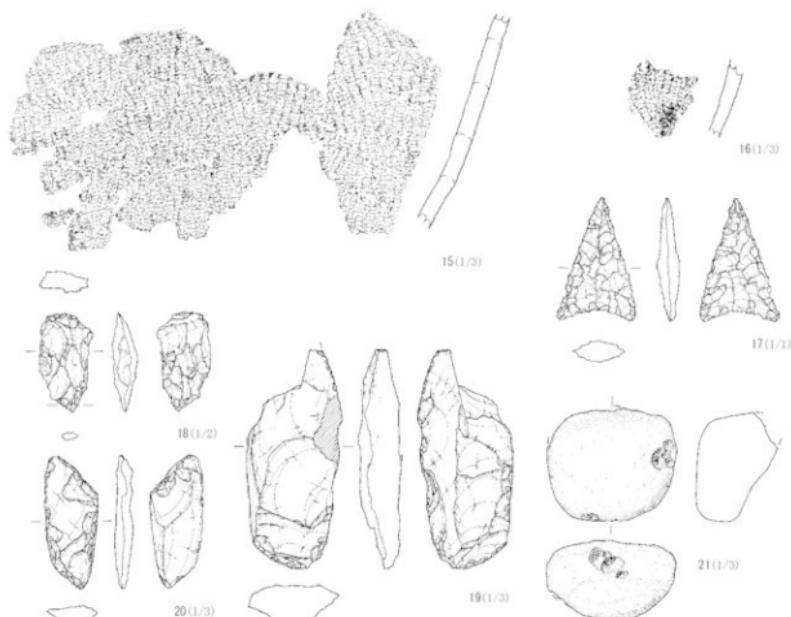
P-14



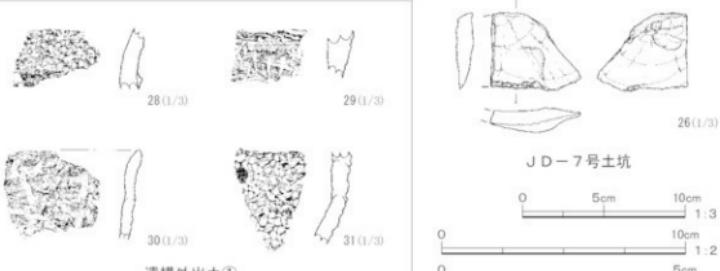
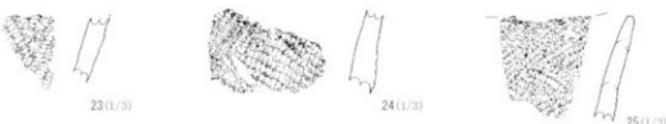
J D-1号土坑



Fig. 9 J-1号竖穴状遗構、J D-1·6号土坑、P-14出土遗物



J D - 5 号土坑



J D - 7 号土坑

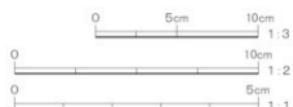
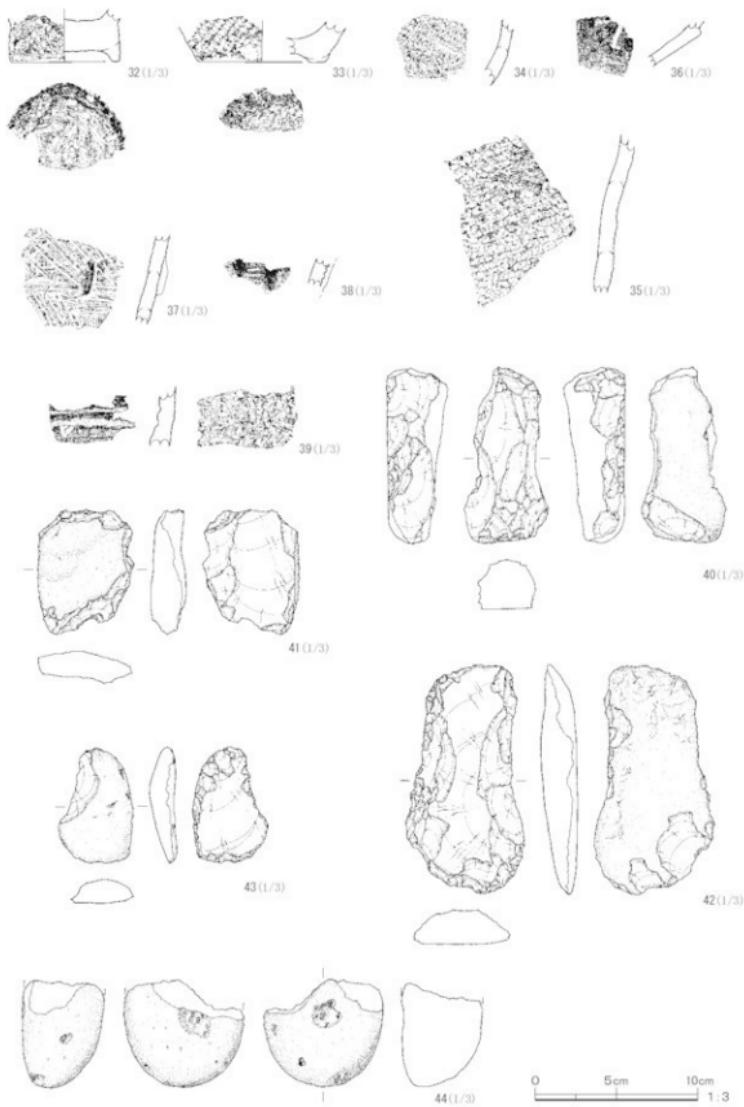


Fig. 10 J D - 5 · 7 号土坑、遗構外①出土遺物



遺構外出土②

Fig. 11 遺構外②出土遺物

Tab. 2 JD-1号堅穴状遺構出土遺物観察表

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②色調 ③残存	成・整形の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	-	①繩維・黒色鉱物 ②根 ③体部片	単節L.R繩文を横位施文。	花積下層式期
2	打製石鏟 スクリーバー	長さ:(2.0) 幅:1.65 厚さ:0.6 重さ:1.39 g 長さ:10.2 幅:14.3 厚さ:2.3 重さ:89.5 g	回基無茎。先端部欠損。チャート。 縄皮をもつ縦長削片の縁辺に加工痕。頁岩。	特徴 備考	縄文時代前期 縄文時代前期

Tab. 3 JD-1号土坑出土遺物観察表

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②色調 ③残存	成・整形の特徴	備考
4	縄文土器 深鉢	-	①繩維・チャート ②根	単節の異方向縄文施文。	花積下層式期
			③尖底部片		
5	縄文土器 深鉢	-	①繩維・石英・黒色鉱物 ②明赤褐色 ③口縁部片	平縁口縁。横位隆帯口縁文様帶を横位隆帯で区画。口縁部文様帶下には櫛目及び薪手状の撫系側面圧痕が2本1組で施される(無節LとRの熱然)。	花積下層新
6	縄文土器 深鉢	-	①繩維・チャート ②明黄褐色 ③口縁部片	平縁口縁に小突起が付される。組紐文施文。	関山II式期
7	縄文土器 深鉢	-	①チャート・黒色鉱物 ②明赤褐色 ③口縁部片	平縁口縁。半載竹管状工具による集合沈線を縱位・横位・斜位に施文。	縄文C式期
8	縄文土器 深鉢	-	①石英・黒色鉱物 ②に赤い縞 ③体部片	単節羽状縄文施文・横位波状縁帶を船形。	縄文C式期
9	縄文土器 深鉢	-	①雲母・チャート ②根	単節R.L.繩文を横位施文。	中層?
			③体部片		
番号	器種	計測値(cm)		特徴	備考
10	スクリーバー	長さ:5.9 幅:4.3 厚さ:1.25 重さ:39.5 g	薄型削片の周縁に加工痕。黒色安山岩。		縄文時代前期
11	スクリーバー	長さ:5.2 幅:(6.1) 厚さ:(1.0) 重さ:31.6 g	縄皮をもつ横長削片の一側縁に加工痕。一部欠損。頁岩。		縄文時代前期
12	スクリーバー	長さ:7.9 幅:4.4 厚さ:1.95 重さ:53.6 g	横長削片の周縁に加工痕。頁岩		縄文時代前期
13	スクリーバー	長さ:8.6 幅:6.2 厚さ:2.4 重さ:136.2 g	縄皮をもつ横長削片の周縁に加工痕。頁岩。		縄文時代前期

Tab. 4 JD-4号土坑出土遺物観察表

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②色調 ③残存	成・整形の特徴	備考
14	縄文土器 深鉢	-	①繩維・チャート・黒色鉱物 ②根 ③体部片	O段多条(R.L.)の異方向縄文施文。	花積下層古

Tab. 5 JD-5号土坑出土遺物観察表

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②色調 ③残存	成・整形の特徴	備考
15	縄文土器 深鉢	-	①繩維・チャート ②黒褐色 ③体部片	O段多条(R.L.)の異方向縄文施文。	花積下層古
16	縄文土器 深鉢	-	①繩維・チャート・黒色鉱物 ②にぶい黄褐色 ③尖底部片	単節R.L.の異方向縄文施文。	花積下層式期
番号	器種	計測値(cm)		特徴	備考
17	打製石鏟	長さ:2.55 幅:1.65 厚さ:0.5 重さ:1.06 g	回基無茎。完形。チャート。		花積下層式期
18	石鏟	長さ:4.1 幅:2.2 厚さ:1.05 重さ:7.56 g	小型削片の先端部に加工痕。チャート。		花積下層式期
19	スクリーバー	長さ:(13.4) 幅:5.75 厚さ:2.7 重さ:193.9 g	縄皮をもつ横長削片の縁辺部に微細剝離痕。上部欠損。頁岩。		花積下層式期
20	スクリーバー	長さ:8.15 幅:13.3 厚さ:1.15 重さ:28.6 g	薄型削片の周縁に加工痕及び微細剝離痕。頁岩。		花積下層式期
21	礫石	長さ:(6.9) 幅:(8.6) 厚さ:(5.6) 重さ:307.3 g	周縁の一部に敲打痕。被熱痕。安山岩。		花積下層式期

Tab. 6 JD-6号土坑出土遺物観察表

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②色調 ③残存	成・整形の特徴	備考
22	縄文土器 深鉢	-	①繩維・チャート・黒色鉱物 ②根 ③体部片	縄文施文。	縄文時代前期

Tab. 7 JD-7号土坑出土遺物観察表

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②色調 ③残存	成・整形の特徴	備考
23	縄文土器 深鉢	—	①織維・チャート・黒色鉢物 ②黒褐 ③体部片	O段多条(R.L.) 縄文の異方向縄文施文。	花積下層古
24	縄文土器 深鉢	—	①織維・石英・黒色鉢物 ②にぶい黄褐 ③体部片	O段多条(単部)の羽状縄文施文。	花積下層式期
25	縄文土器 深鉢	—	①織維・チャート・黒色鉢物 ②にぶい褐 ③口縁部片	波状口縁と想定される。単部の羽状縄文施文。口沿部まで縄文は施文される。	花積下層式期?
番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②色調 ③残存	成・整形の特徴	備考
26	スクレーパー	長さ:4.8 幅:5.03 厚さ:1.5 重さ:34.6 g	織度をもつ横長削片の一側面に加工痕。一部欠損。直岩。	花積下層式期	

Tab. 8 P-14出土遺物観察表

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②色調 ③残存	成・整形の特徴	備考
27	縄文土器 深鉢	—	①織維・黒色鉢物 ②にぶい黄褐 ③口縁・体部片	肥厚口縁。残存部位に限り無文。	花積下層式期

Tab. 9 遺構外出土遺物観察表

番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②色調 ③残存	成・整形の特徴	備考
28	縄文土器 深鉢	—	①織維・チャート・黒色鉢物 ②浅黄褐 ③口縁部片	器面荒れる。縄文施文。口縁部と体部を横位陸帯で削す。	花積下層式期
29	縄文土器 深鉢	—	①織維・石英・チャート・黒色鉢物 ②明赤褐 ③口縁部片	斜切文・横位及び巻手状になると想定される撫糸側面圧痕が2本1組で施される(無撫糸と長い撫糸)。	花積下層新
30	縄文土器 深鉢	—	①織維・石英・チャート・黒色鉢物 ②根 ③口縁部片	平縁口縁。幅広で深い沈縁を多方向に施す。	縄文時代前期
31	縄文土器 深鉢	—	①織維・チャート ②黄褐 ③体部片	前き段合撫か?	関山式期?
32	縄文土器 底径:(6.2) 深鉢	—	①織維・黒色鉢物 ②根 ③底部片	上底。単部R.L.縄文施文。	関山II式期
33	縄文土器 深鉢	底径:(7.8)	①織維・チャート・黒色鉢物 ②にぶい黄褐 ③底部片	上底。単部L.R.縄文施文。底面にも単部L.R.縄文施文。	関山II式期
34	縄文土器 深鉢	—	①織維・チャート・黒色鉢物 ②にぶい褐 ③体部片	単部R.L.と無撫糸の羽状縄文施文。	縄文時代前期
35	縄文土器 深鉢	—	①織維・石英・チャート・黒色鉢物 ②根 ③体部片	無撫糸縄文を縱位・斜位に施す。	黒浜式期
36	縄文土器 浅鉢	—	①黒色鉢物 ②灰黄褐 ③体部片	体部は鋸刃に屈曲する。内・外面部な磨き。	諸磯b式期
37	縄文土器 深鉢	—	①砂粒 ②黒褐 ③体部片	半截竹管状工具による巻位・横位・斜位集合沈縫施文後棒状貼付文を施す。	諸磯c式期
38	縄文土器 深鉢	—	①チャート・黒色鉢物 ②褐色 ③体部片	半截竹管状工具による横位平行沈縫施文後棒状貼付文を施す。	諸磯c式期
番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②色調 ③残存	成・整形の特徴	備考
39	軟質陶器 鍋	—	①片岩・黒色鉢物 ②黄灰 ③体部片	ロクロ整形。外面:風化著しく全体的に剥落。並行する2条の横位沈縫が窪る。	近世以降
番号	器種	計測値(cm)	①胎土 ②色調 ③残存	成・整形の特徴	備考
40	スクレイバー	長さ:10.75 幅:5.2 厚さ:3.75 重さ:233.2 g	自然縫の周縁に急角度な調整を施す。直岩。	縄文時代前期	
41	スクレイバー	長さ:7.65 幅:6.95 厚さ:2.2 重さ:115.3 g	織度をもつ横長削片の周縁に加工痕。直岩。	縄文時代前期	
42	打製石斧	長さ:14.1 幅:7.3 厚さ:2.3 重さ:256.0 g	織度をもつ大型横長削片の周縁に加工痕。直岩。	縄文時代前期	
43	スクレイバー	長さ:7.1 幅:4.6 厚さ:1.65 重さ:50.4 g	織度をもつ縱長削片の周縁に加工痕。一部磨耗痕。直岩。	縄文時代前期	
44	圓石	長さ:(6.5) 幅:7.3 厚さ:5.1 重さ:256.3 g	自然縫の表面中央に敲打痕。上半部欠損。安山岩。	縄文時代前期	

VI まとめ

今回の調査では、堅穴状遺構 1 基・土坑 7 基（うち、陥し穴 1 基）・ピット 35 基・井戸 1 基・溝 1 条が検出された。このうち、JD-1 号土坑（陥し穴）の調査で、構築方法の一端を捉えることができた。

陥し穴は 1 区の中央に位置し、等高線に遺構の軸がほぼ直交する状態で確認されている。形状は上位で不整形円形状、中位から下位にかけて長方形状を呈し、底面には、杭の痕跡が遺構の長軸方向に沿って直線的かつ等間隔に 3 基並ぶ状態にある（JD-1 P₁・P₂・P₃）。今回の調査では、これらの杭の痕跡を断ち割り調査することにより、杭の設置方法を捉えることができた。

断ち割り調査は、杭が斜め方向に打ち込まれていることも想定し、その先端を明確に観察することを目的とした。調査の方法は、各杭痕の手前にトレーナーを設け、徐々に杭方向にスライスしていく工程をとった。その結果、3 本とも掘り方をもたず、直接杭を底面に打ち込んでいる状況を捉えることができた。また、杭先端付近の地山層が打ち込み時の圧縮を受け、部分的に硬くしまる状態であった。さらに、杭の抜き取りは行われておらず、腐食した杭の表皮がわずかに遺存している状態も確認することができた。

このように、今回の調査では一部ではあるが陥し穴の構築方法を垣間見ることができた。しかし、底面に打ち込まれた杭が「棒状」なのか「逆茂木」なのか等、陥し穴内部空間の状態・明確な時期決定等の解決できていない問題点も多い。また、本遺跡と同じ台地上に立地する横沢大塚遺跡や横沢新屋敷遺跡など、陥し穴が確認されている周辺遺跡との関係を比較・検討する必要がある。今後の調査や、現時点まで行われている調査事例及び研究にさらなる資料を加え、再検討を行うことを期して、まとめとしたい。

参考文献

- 大胡町教育委員会 1997 年 『横沢新屋敷遺跡』
大胡町教育委員会 2002 年 『横沢芳山遺跡 横沢大塚遺跡』
菊池 実 1987 年 『研究紀要 4』 繩文時代の陥し穴調査法と派生する諸問題
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
石田 真 2004 年 『研究紀要 22』 群馬県北西部における陥し穴の構築時期をめぐって
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

写 真 図 版



遺跡から赤城山を望む（南から）



1区・2区全景（北から）

P L. 2



1区調査区全景（北から）



2区調査区全景（北から）



J-1号竪穴状遺構（西から）



J-1号竪穴状遺構 碓出土状況（西から）



JD-1号土坑（北から）



JD-1号土坑セクション（南西から）



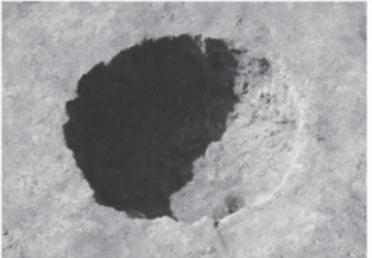
JD-1号土坑 小ピット断ち割り（南から）



JD-2号土坑（北から）



J D - 4 号土坑 (東から)



J D - 5 号土坑 (東から)



J D - 5 号土坑遺物出土状況 (東から)



J D - 6 号土坑 (北から)



J D - 7 号土坑 (南西から)



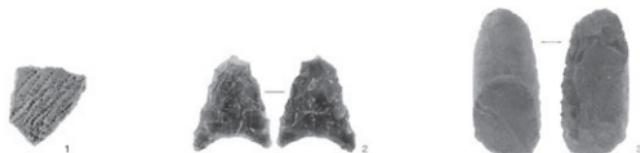
I - 1 号井戸 (北東から)



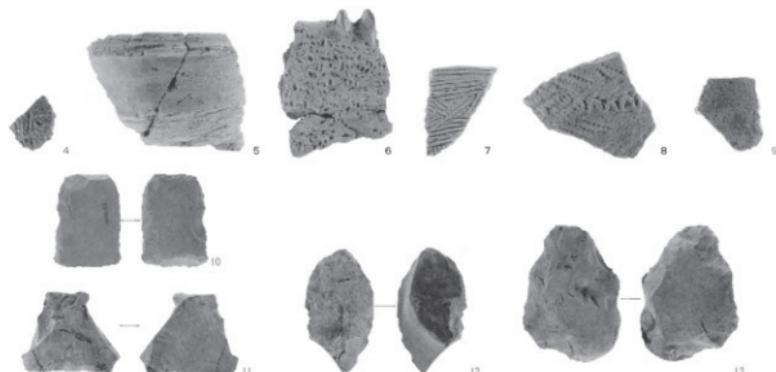
W - 1 号溝 (西から)



基本層序B (東から)



J — 1号竖穴状遗構



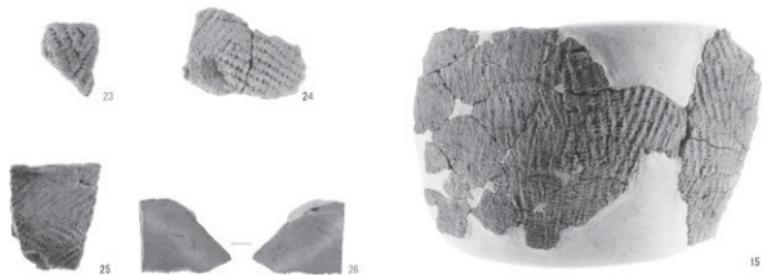
J D — 1号土坑



J D — 4号土坑

J D — 6号土坑

P — 14



J D — 7号土坑



J D — 5号土坑



造模外

出土遺物②

報告書抄録

フリガナ	ヨコザワゴタンダイセキ
書名	横沢五反田遺跡
副書名	市道大胡 104 号線（窪替戸・前野線）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編集者名	鈴木雅浩 土井道昭 日沖剛史
編集機関	群毛野考古学研究所
	〒 379-2146 群馬県前橋市公田町 1002 番地 1 TEL 027-265-1804
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
	〒 371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目 10-2 TEL 027-231-9531
発行年月日	西暦 2007 (平成 19) 年 3 月 2 日

所収遺跡名	所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北緯	東経			
横沢五反田遺跡	群馬県前橋市 横沢町 533-5 ほか	10201	18 I 3	世界測地系 36° 25' 43"	139° 08' 12"	061106 ~	250 m ²	道路改良工事
				日本測地系 36° 25' 32"	139° 08' 24"	061120		

所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
		前期	後半	堅穴状遺構	1 基	縄文土器（花積下層・ 關山・黒浜・諸磯 b・ 諸磯 c 式土器）	縄文時代石器・打製 石斧・剥片石器・鍥 石器（磨石類）	
横沢五反田遺跡	集落	縄文時代前期初頭～ 前期後半		土坑 陥し穴 ピット	6 基 1 基 35 基			確認。花積下層式期 の遺構確認。
		6 世紀中頃以降		井戸 溝	1 基 1 条			
						軟質陶器		

横沢五反田遺跡

市道大胡104号線（塙替戸・前野線）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2007（平成19）年2月14日 印刷

2007（平成19）年3月2日 発行

編 集 則毛野考古学研究所

発 行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2

TEL 027-231-9531

印 刷 朝日印刷工業株式会社
